



鈴木龍介 編著

『Q&A東日本大震災と登記実務』

登記をベースに今回の震災における諸問題についてQ&A形式で簡明に解説

【評者】佐藤純通

平成23年3月11日午後2時46分東北・三陸沖を震源地とする東北地方太平洋沖地震を端緒とする東日本大震災は、未曾有の大惨事となった。津波による流出、家屋の倒壊、火災などにより多数の死傷者が発生し、今もなお連日のようにニュースで被災地の状況や救援活動が映し出され、その被害の甚大さが伝えられている。

今回の震災でお亡くなりになられた方々へ哀悼の意を表し、被災地の皆様にお見舞いを申し上げる。

このような状況の下、いまだ混乱の渦中にある被災地の方々やその支援者に対して、それぞれの分野の専門家から、いち早く適切な情報や知識を提供することは、非常に重要なことである。今回紹介する『Q&A東日本大震災と登記実務』は、発刊時期、内容ともにその要請に応えるものといえる。

本書は、登記をベースとして今回の震災における諸問題について、Q&A形式で簡明に解説している。できる限り要点をしぼった記述で、それを補うかたちで資料となるwebアドレス等を示すとともに、相互の関連する設問について参照ができるような工夫がなされており、実務

家にとって使い勝手のよい構成となっている。また、内容的には、「第1章 登記全般」、「第2章 不動産権利登記」、「第3章 不動産表示登記」、「第4章 商業登記」、「第5章 後見登記」、「第6章 動産・債権譲渡登記」と幅広い分野を網羅的にとりあげている。

本書の編著者は、実務の第一線で活躍する司法書士、土地家屋調査士の面々で、本書を一週間で書き上げたと言及している。これは、まさに今回の震災に対する諸氏の専門家としての支援の気持ちのあらわれといえよう。

本書は、司法書士、土地家屋調査士をはじめとする被災者の方々の支援者にとって、現場でおおいに役立つ一冊といえる。また、被災者の方々等からの相談に際しては、本書を座右に置くことで、効果的な活動ができよう。

最後になるが、被災者の救援と復旧・復興を祈念するとともに、評者自身も司法書士として、この国家的危機に尽力する所存である。

(商事法務、四六判136頁・定価1,260円(税込))

(評者は司法書士・前日本司法書士会連合会会長)